

駒場防災についての長老談話（3）

平成17年7月19日

5. Eさんのご意見

拡大駒場防災会議に関して

名称、組織は別として、学校、保育園等との顔合わせや連絡は必要だと思う。ただ先日の会合の様子からすると、それはかなり唐突な提案であり、防災訓練の一環として行うには無理がある。これはこれとして、別に取り上げ、皆さんの合意を図りながら話し合いを進めていくのはどうか。

防災部として力を入れることは次の2点である。

- 1) 初期消火の徹底
- 2) 住民の安全な避難

各家庭の消火器（スプレー式など）で、どの程度消火できるのか、実際に繰り返し試す

少人数グループで行うのが望ましい。

町内会が声を掛けても、部・班がすぐに集まる状況ではないと思う。そこでグループ別訓練を目標として、はじめは何ヶ所かに分けて訓練を行い、結果を知らせていく、という形が良いのではないか。

高齢者（特に1人暮らしの方）や障害を持つ人、また小さい子供や、病人のいる家庭などが安全に避難できるよう支えることも、ご近所の大事な役回りである。まずは住区センターの車椅子を使って、実際に訓練を試みるのはどうか。

ポンプ車訓練

ポンプ車が実際に役立つものかどうか、また役立てられるかどうか、まだわからない。しかし防災部メンバーと防災に関心のある方々は、防災槽の所在地、大きさ、鍵の保管場所、ポンプ車の性能、操作方法は、知っておく必要がある。そこで今年の訓練には、これらも加えてほしいと思う。

放水の訓練もしてほしい。

震災の時、各自の安全を確保した上で、もし火災がとなっても、ポンプ車に集まれる人はいるのか、非常に気にかかる。

避難路の安全確認 - 倒壊しそうなブロック塀、瓦屋根、落下しそうな看板

これは大事なことだと思う。避難路だけでなく、危険だと思う場所、また人が住んでいないままの木造家屋など、火災を広げそうな所などを把握することも大切である。地域防災の弱いところを町会内として地図に落としてゆくなども必要である。

住民自身による防災訓練が必要だ、防災の主役は住民1人1人なのだ、という主張はその通りだと思う。

1丁目のアパートには20歳台の若い層が多いのだが、そのほとんどが独身で入れ替わ

りが激しく、住民意識を育てる“時”がない。しかし火を出さないようにとの呼びかけを続けたい。またいざという時には彼らの力も借りられるよう、我々自身のコミュニティーを育てたいと思う。

6 . F さんのご意見

まず言いたいのが、防災部の一元化である。かつて3つの商店会に力があつた時、区の防災課から3つの防災部として夫々にポンプ車を配置され、今まで夫々年間4万円の整備費が支給されていた。今年は活動実績がないということで、3万6千円に削減された。この費用は年度末には、夫々の商店会の会計に組み入れられてきている。

今、商店会が衰退している現状を踏まえ3つのグループを駒場防災部として一元化し、区からの窓口を1つにするように、区の防災課に強く要望してほしい。

今の町会の部班の分け方が納得できない。なんだか使いづらい。

小グループの分け方をどうするか。どこに集合するのか。現実的に分けられるのか？

PTA に声をかけて、協力してもらったらいい。

実際にことが起きた時は、消防署 消防団 防災部という序列の中で、防災部は出る幕がないだろう。防災部としてやるべきこと、やれることをしっかり把握しておかなければならない。

以上